

2023年(令和5年)7月19日(水曜日)

がん免疫治療 ケアチーム

橋本、かつらぎの3病院連携

がんの免疫治療における

様々な副作用に即応できるように、橋本市とかつらぎ町にある3病院が連携し、医療的ケアにあたるチームを発足させた。運営母体の異なる病院がチームを作るのは全国的に珍しいとい

い、関係者は「医療の地域間格差をなくすことにもつながる。モデルケースとして広がってほしい」としている。

いる。

紀和病院（橋本市）では2021年10月に導入し、延べ約100人に使用。免疫の働きが活発になりすぎること、副作用が生じる可能性もあるが、いつ、どんな副作用が起きるか予測は難しいという。また、大腸炎や肝機能障害、糖尿病など様々な症状に対応できる医師が必要になり、1病院では限界がある。

このため、紀和病院に加えて橋本市民病院と県立医科大付属紀北分院（かつらぎ町）が連携。3病院の医師や看護師、薬剤師らが6

月にチームを結成した。患者の情報を共有し、副作用の早期発見や重症化の防止などを図る。

チーム名は「伊都橋本医療圏免疫療法サポートチーム」(Ito-Hashimoto ICI Support Team)の二つのIをとり、「アイイサポートチーム」と名付けた。チーム長に就いた駿田直俊・橋本市民病院長は「各病院の得意分野を組み合わせることで、患者が安心して治療を受けてもらえる。地域の中に大きな病院をもう一つ作るイメージで対応したい」と話す。